

### 西村幸夫、都市に向き合った日々・・・

Prof. Yukio Nishimura's career

— 都市に学び、都市を育て、これからも都市とともに —

- learned from cities, raise cities, with cities from now on -

西村先生が世界各地の都市に赴き、まちとそこに暮らす人々に向き合った、激動の60年間を当時の写真とともに振り返ります。今回は、西村先生ご自身、そして奥様から写真をご提供いただきました。

text\_hagiwara



▲若かりし頃の写真1



▲若かりし頃の写真2



▲ World Monument Fund 本部 (NY) ▲ 00年イコモス本部パリ 世界遺産評価議論



▲ 01年台湾南部離島でのヒアリング風景



▲ 06年東京で李明博氏と会話



▲ 12年台湾での還暦祝い

1952	1977	院生時代	1982	1988	1991	1996	2002	2008	2011	2012
福岡県福岡市 生まれ	東京大学 都市工学科卒業	ご結婚!	博士課程修了 明治大学工学部建築学科助手	東京大学都市工学科助教授 アジア工科大学助教授	MIT 客員研究員	東京大学工学部 都市工学科教授	イコモス副会長	東京大学先端技術 研究センター教授	東京大学 副学長就任	祝還暦!



▲ 89年タイ、奥様と



▲ タイにてご息子と



▲ 95年頃ベナンでIdid先生らと



▲ 02年北沢先生らと北京へ研究室旅行



▲ 05年頃南インド調査、台湾の丘先生と



▲ 台湾の馬英九総統と会話

### 西村先生が選ぶこの3冊!

These three volumes that Prof. Nishimura chose!

— 著作紹介 —

- Introduction of writings -

西村先生が手がかれた著作のは膨大ですが、今回は特に思い出のある三作を、西村先生ご本人のコメントとともにご紹介!

**都市保全計画** (東京大学出版会、2004年)

1990年より、都市工学科で「都市保全計画」の講義を始めましたが、適切な教科書がなかったため、それまでやってきたことをまとめて1冊にしたものです。その意味で着手から20年以上かかっています。この本で、建築学会賞(論文)をいただき、こうした分野を公認してもらったという意味でも、私にとって記念すべき著書です。

**環境保全と景観創造** (鹿島出版会、1997年)

初の論文集。日本不動産学会の著作賞を頂いたのですが、選者が独自に新しい分野を築いたという点を評価してくれたことが印象に残っています。表紙も私のデザインで、コルテスのメキシコシティ図は一度論じてみたいと思っていたもので、表紙の絵柄として使いました。スペイン人に滅ぼされる前のティノチティランの姿です。

**町並みまちづくり物語** (古今書院、1997年)

『環境保全と景観創造』とほぼ同時に一般書を書く、というスタンスも大切だと思って手がけた本です。個人的にも思い出深い国内17都市のまちづくりの事例を、固有名詞を挙げて紹介しています。台湾(繁体字)、中国(簡体字)でも出版され、それなりに受け入れられたのも嬉しかったです。

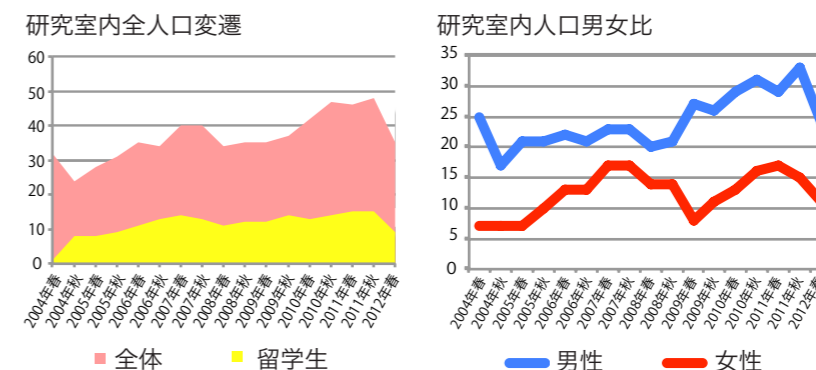
### 西村先生の教え子たち!

Prof. Nishimura's former students



text\_kashiwabara

近年の研究室内の人口分析。そこから読み取れる傾向とは…。



在籍名簿が残る2004年以降の研究室内の人口(修士・博士)をまとめた。まち大創設などもあり研究室のメンバーは増加傾向。この間、男女比はほぼ2:1で推移している。留学生は27人で全体の約3割。都市デザイン研究室は、西村先生のもとに世界各地から個性豊かなメンバーが集う国際色豊かな研究室であると言える。



新企画！  
まち大コーナー 第1弾！  
"Machi-dai corner" vol.1

『新たな視点で』



若松 久男さん



▲シティー・アート論 ▲M in M project

長く企業に在籍した後に独立し、建築の設計とともに都市のデザイン、都市の美しさを研究していきたいと考え、活動をしています。私は、建築・都市・自然・環境・デザインと、ほとんどジャンルの境界を持って見ていません。魅力あるものはミクロからマクロへ何か共通するものを感じます。その意識を自分なりに確認できたのが、次の2つの拙書です。

一つは、「M in M project 1991-2001 博物館動物園駅の進化と再生」です。特定非営利活動法人・上野の杜芸術フォーラムとして、約20年間に及ぶ古い駅空間の保存と再生の提言活動で、その初期10年間の記録をまとめたものです。

そしてもう一つは、「シティー・アート論

まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う新コーナーがスタート！初回の今号では、修士課程2年の若松久男さんが登場です。

修士課程2年 若松久男

CITY ART」です。これまでに展覧会や記事にしてきた幾つかの都市空間プロジェクトを題材にした「シティー・アート」を元に、一般の方々が読みやすいように都市美景についてエッセイ風に著したものです。

「東大まちづくり大学院」に出会うことになったのは、この「シティー・アート論」を書きあげた時期でした。建築学会図書室に貼ってあったポスターに引かれてしまいました。現在、まちづくり大学院と都市デザイン研究室の素晴らしさに、多くの刺激を受けて勉強させていただいています。これからも新たな視点で研究と多様なプロジェクトに挑戦していきたいと思っています。また、いろいろな方々との出会いを楽しみにしています。

台湾産業遺産めぐりの旅 — 後編 —

Tour of Industrial Heritages in Taiwan. - Vo1.2 -

マガジン編集長の台湾旅行記。後編では台湾南部を取り上げます。

日本統治時代の台湾は砂糖産業の発展が目覚ましく、台湾製糖に引き継がれた後も砂糖は台湾の主要輸出品でした。虎尾 (Huwei) の製糖工場は日本時代の工場とサトウキビ積み出し列車が残っています。工場は現在も稼働しているため、見学は受け付けておらず、一度は守衛に追い返されましたが、オフィスにいた日本語が堪能な老人 (実は偉い人?) が特別に案内してくれました。工場内は日本時代の倉庫や事務所が大切に保存されており、大変感銘を受けました。砂糖産業で発展した虎尾の市街地も日本統治時代の役場や官庁、官舎が保存・活用されており、市民の憩いの場になっていました。

また、彰化 (Changhua) 駅では、台湾で唯一現役で使われている転車台と扇形車庫があり、ダイナミックな鉄道遺産には圧倒されました。

今回の旅の最終目的地、高雄 (Kaohsiung) では、埠頭の旧臨港線沿いに立ち並ぶ台糖倉庫群

や操車場後、臨港線跡の自転車道などをレンタサイクルでめぐり、真っ黒に日焼けしてしまいました。

12日間にわたり台湾の産業遺産をめぐりましたが、多くの施設が大規模に保存・活用されているとともに、地元の人がそうした施設に誇りを持って大切にしている点が最も印象に残りました。私の台湾滞在記は以下で公開しております。(http://bit.ly/Kks9qx)



▲台湾唯一のサトウキビ鉄道が残る虎尾の製糖工場



▲活用される日本統治時代の社宅



▲高雄の臨港倉庫



▲転車台と扇形車庫に大興奮！

嵐を呼ぶ男たち  
Men who cause a storm

— 都市デザイン研・空間計画研卒論生歓迎会 —

- Welcome party for B4 -

text\_hagiwara

6月19日(火)、台風4号の嵐の中、都市デザイン研配属となった高梨君・丸山君と、空間計画研に配属となった芝原君の歓迎会が、伊藤国際学術センター内のファカルティクラブにて盛大に行われました。会中、体育会系の男たちからの力強い決意表明が聞かれ、卒論生たちの今後の活躍に期待が高まる夜となりました。また、今回の歓迎会で、M2 安東さん、浅野さんからコンパ係を引き継ぎました。次回からM1の手で、様々な会を盛り上げていきたいです。お二人とも1年間お疲れさまでした。



▲卒論生3名を囲んで乾杯！



▲黒瀬助教らと談笑する高梨君

水場の文化的景観を巡る

The cultural landscape of a watering place

— 利根川・渡良瀬川合流域現地調査 —

- TONE & WATARASE River -

text\_koshimura

6月13日(水)に窪田先生、安東、越村で群馬県邑楽郡板倉町を見学しました。利根川と渡良瀬川が合流し広大な低湿地と自然堤防が分布する「水場」に展開した水と共生する生活生業の文化が評価され、国の重要文化的景観に選定された場所です。数百haにもなる区域内にある水場を次々と巡りましたが、中でも、旧河道の用水路を境に自然堤防集落と後背低地の水田地帯という地形・土地利用の対照が明確に存在していることや、高水敷の中で客土により地盤を高くした水田「川田」で耕作が続けられている様子がうかがえたことなどが印象的でした。川好きの自分としては堪らない1日となりました！



▲現在も耕作が行われている川田



▲自然堤防集落と水田

プロジェクト報告  
プロジェクト新展開続々！  
New developments in Projects

新しい疑問に、新しいメンバー。夏に向けて、新たな展開を見せる各プロジェクトの今をお伝えします。

SAWARA-project  
佐原プロジェクト

M2 安東 政晃

現地調査当日の6月16日(土)は、あやめ祭の時期ということもあり、観光客で賑わう佐原の姿がありました。また訪れる度に、復興へ着実に進む様子に佐原のまちのエネルギーを感じさせられます。

終戦直後の佐原は「香取街道で大抵のモノが揃う」というほど、様々な店舗が並ぶ商業地区が形成されていたそうで、小道に所狭く並ぶ商店跡などにその名残が見て取れます。そういった近年の歴史を知ると、小野川に架かる橋ひとつにも「なぜこの場所に？」という疑問が湧いてきたり。都市の履歴を掴むべく、ヒアリングと佐原の「おもてなし」を楽しむ日々が続きます。



▲裏通りの商店街



▲ヒアリングの様子

SHIMIZU-project  
清水プロジェクト

B4 丸山 裕貴

清水PJでは6月18日(月)に現地調査を行いました。私は初めての清水訪問だったので、午前は清水駅の南に位置する日の出地区を見学しました。切妻の倉庫群、臨港線跡などかつての港の様子が想起される資源が多く残っており、日の出埠頭の持つポテンシャルを感じました。

午後は、市役所の職員の方、波止場通り・「魚馬」のご主人、フェルケル博物館の方と、今後行われるイベントについて具体的な話し合いが行われました。現地の方々が持っている「清水を活性化させたい」という強い思いと我々学生への期待を感じ、身の引き締まる思いでした。



▲日の出町の切妻倉庫群



▲臨港線跡利用の可能性を探る

6・7月の予定

Information

- 6月30日 「いま、都市をつくる仕事」を語る トークイベント
- 7月11日 第6回研究室会議
- 7月15~23日 ルンビニPJ現地調査

編集後記 萩原 拓也

夏至も過ぎ、梅雨らしいジメジメした日々が続いていますが、皆さん体調など崩していないでしょうか。そんな中ではありますが、私のデスクの上ではサークルの後輩からもらった『昭和風』卓上扇風機が、毎日涼しい風を運んでくれています。これから世間は、いよいよ夏本番。今年も続く厳しい節電の夏をレトロなプロペラ音とともに乗り切っていきたいものです。